



「応用知覚科学研究センター」の設立 及び 設立記念シンポジウムの開催について

概要

九州大学大学院芸術工学院は、平成 25 年 4 月に「応用知覚科学研究センター」を設立します。同センターでは、デザインの基礎研究として「知覚科学」という学際的な研究分野を確立し、世界的な拠点を目指します。また、二つ以上の専門分野を持つ研究者のみを集め、担当領域を少しずつ重ねることによって、学際研究の迅速化を図ります。

同センター設立予定の 4 月 1 日（月）には、「知覚と言語のあいだで」というテーマで、英文学研究から脳研究まで幅広い分野にわたって、本学名誉教授から博士課程学生まで幅広い世代が集まり、設立記念シンポジウムを開催します。

背景

人間は人工の「環境」「物」「情報」に囲まれて生活し、工業技術が進展するとともにその関係は複雑化しています。真に豊かな生活のためには、**人間と「環境」「物」「情報」との関係**についての研究が不可欠です。文部科学省の科学研究費補助金制度（科研費）等においても重要性を認められている「デザイン学」は、そのような研究を目指す学際的な領域であると考えてよいでしょう。デザイン学の核となるのが「知覚科学」です。これは、「物が見える」「音が聴こえる」という、意識の先端に上る現象を、脳活動と関係付けることによって、**脳と心との不即不離の関係**を明らかにするような学問分野です。

九州大学は、「**知覚心理学**」の分野で全国最多の 8 名の教員を擁しており、そのうち 5 名が芸術工学研究院のある大橋キャンパスで活動しています。この力を生かさないと考えております。芸術工学研究院では、「**実験心理学**」の分野において科研費の基盤研究として最も大きい「**基盤研究 (S)**」を 2 回実施し、次に大きい「**基盤研究 (A)**」を 1 回実施していますが、この分野でこれだけ大きいプロジェクトが集中している例は他の大学にはありません。

芸術工学研究院は、昭和 43 年に「九州芸術工科大学」として設立され、平成 15 年に九州大学と統合されました。文系、理系、芸術系の教員が分野の壁を越えて共同作業を行なう伝統が確立しつつあり、現在は医学研究院、人文科学研究院と連携して「**文理融合型の知覚・認知研究拠点**」を形成しています。

内容

平成 25 年 4 月に九州大学大学院芸術工学研究院に新たに設立する「応用知覚科学研究センター」では、学際的な研究を広く迅速に行うために「**フロンティア共有型研究システム**」と名付ける新しい研究システムを導入します。同センターには、**二つ以上の分野で実績を認められた研究者のみ**を集め（例：「数学と脳科学」「聴覚心理学と信号処理」「視覚心理学と人工現実研究」などの組みあわせ）、異なる領域を担当する研究者が、少しずつ領域に重なりを持たせることにより、コミュニケーションの効率化を図ります。

同センターの設立と、このような研究システムの可能性を示すため、「**『応用知覚科学研究センター』設立記念シンポジウム—知覚と言語のあいだで**」を以下のとおり開催します。

- ・日時：平成 25 年 4 月 1 日（月）13:30-18:30
- ・場所：九州大学大橋キャンパス 3 号館 2 階 322 教室
（※使用言語：英語）

知覚科学に関係する幅広い分野から第一線の研究者をお招きし、当センターからも関連する話題を提供します。発達心理学、応用言語学、英文学研究、音声科学、音響学、バイオ統計学、脳研究などの一見かけ離れた分野が「知覚」というキーワードで結びつきます。同シンポジウムの講演内容はオンライン上で公開し、世界中から閲覧できるようにする予定です。

なお、同シンポジウムに参加する研究者の間で**既に行われている国際共同研究**としては、日本語圏と英語圏（オーストラリア）における乳幼児の声のリズムを数理的に比較した例があります。この成果は国際電子ジャーナルとして急速に評価の高まっている *Frontiers in Psychology* に 2013 年 2 月 28 日に掲載されており（doi: 10.3389/fpsyg.2013.00057）、**「フロンティア共有型研究システム」のモデル**となるものです。

■効 果

「知覚科学」という学際的研究領域を確立し、**世界的拠点**を形成します。デザインに関する基礎研究と応用研究とを一体化します。

学際的研究を広く迅速に進める新しい研究方式として「フロンティア共有型研究システム」を育てます。英語を学術上の公用語とすることによって、**世界中の研究者をリアルタイムで討論**に加えます。

■今後の展開

当面の研究テーマとしては「空港利用者に対する情報伝達の評価・改善」「代用音声の開発」「映像と臨場感」「錯視のデザインへの応用」「知覚に関わる脳活動の数理的表現」などが挙げられます。これらの中から重要かつ優先すべきテーマを選定し、学内他部局との連携を図りながら、「フロンティア共有型研究システム」による研究を開始します。連携の基礎が固まりしだい、当センターを全学の組織に発展させることを目指します。世界的な拠点として活動の幅を広げてゆきます。

【お問い合わせ】

九州大学大学院芸術工学研究院 教授 中島祥好（なかじま よしたか）

電話：092-553-4558, 4564

携帯：090-4771-4558

FAX：092-553-4520

Mail：nakajima@design.kyushu-u.ac.jp